

8. 1. Twitter と Instagram はじめました

畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター公式 Twitter をはじめました。
センターでの取り組み，研究成果，各種イベント告知など発信していきますので，今後とも
どうぞ宜しくお願い致します。

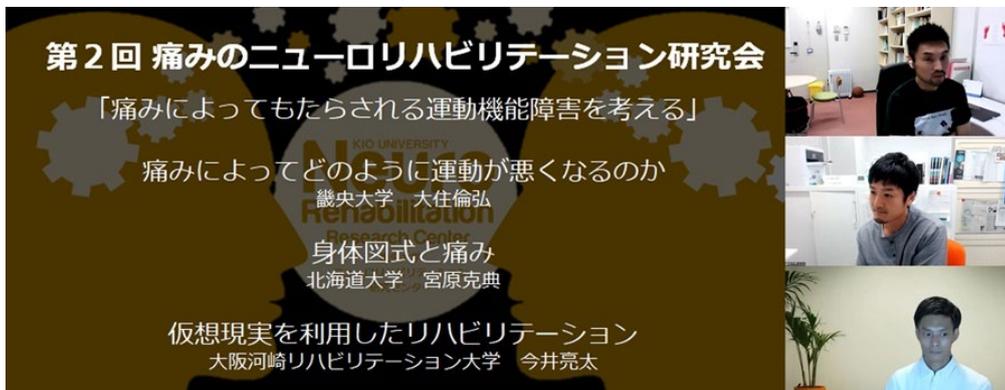


Twitter ⇒ https://twitter.com/KIO_NRC

Instagram ⇒ <https://www.instagram.com/kionrc/>

8. 2. 第2回 痛みのニューロリハビリテーション研究会を開催しました

2022.7.21 に WEB 上で「第2回痛みのニューロリハビリテーション研究会」を開催しました。テーマは「痛みと運動障害」であり、宮原克典 先生（北海道大学）、今井亮太 先生（大阪河崎リハビリテーション大学）をお招きしてディスカッションしてもらいました。宮原先生からは「身体図式」を丁寧に説明してもらい、その視点から痛みの経験を説明してもらいました。痛みの前反省的经验についての話は、運動障害に対するリハビリテーションのヒントになるものでした。今井先生からはバーチャルリアリティ空間でのリハビリテーションについて話して頂きました。とても面白い近未来的な取り組みをされていて、リハビリテーション現場から仮想空間に飛んで運動療法をするのが当たり前になる時代がもうすぐ訪れそうな予感がしました。



8. 3. 第2回 発達科学と小児リハビリテーション研究会を開催しました

2022.2.1にWEB上で「第2回発達科学と小児リハビリテーション研究会」を開催しました。第2回目となる今回は、近年その有効性に関するエビデンスが数多く報告されているCognitive Orientation to Daily Occupational Performance (CO-OP) アプローチとロボットリハビリテーションに着目し、それぞれの領域において第一線でご活躍されている塩津裕康先生(中部大学)と川崎詩歩未先生(京都大学 客員研究員)をお招きしてディスカッションしてもらいました。塩津先生からはCO-OPアプローチの理論的背景やその効果に関するエビデンスを解説して頂きました。川崎先生からはロボットリハのエビデンスと現状の課題について解説して頂きました。また平日晩であるにも関わらず最終190名もの沢山の方々にご参加いただくことができました。塩津先生と川崎先生から未来が明るくなるようなワクワクする情報提供をいただき、新たな知識の吸収と自身の臨床や研究にどのように生かしていけるかを考える良い機会となったと感じています。



WEB開催 2022年12月1日(木) 19:00-21:30

第2回 発達科学と小児リハビリテーション研究会

CO-OP × ロボット



8. 4. 第20回畿央祭で子ども向けイベントを開催しました

第20回畿央祭 “紬〜つむぐ〜” ウェルカムキャンパス『子どもたちへ！運動の器用さにチャレンジしてみよう！！』

2022年度畿央祭ウェルカムキャンパスにおいて、畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター企画として、同研究センター准教授の信迫悟志先生と教育学部の学生8名と社会人6名によって、子ども向けイベントが開催されました。同イベントは、実に3年ぶりの対面開催となり、事前申し込み制で43名の子どもたちが参加してくれました。

このイベントで子どもたちは、いくつかの手先の器用さ課題と2種類のコンピュータ課題に取り組みました。子どもたちが熱心に取り組んでいる姿が印象的でした！みんな、コンピュータ課題が笑ってしまうほど難しかったらしく、子どもたちと保護者の方の笑顔にこちらも嬉しくなりました！将来、教職に就くことを目標としている教育学部の学生たちにとっても、子どもたちに接する良い機会になったと思われます。



8. 5. 第20回日本神経理学療法学会学術大会で

森岡 周 教授 が大会長を務めました

2022年10月15~16日、当研究センター長 森岡 周 教授 が大会長を務めた「第20回日本神経理学療法学会学術大会」がグランキューブ大阪で開催されました。今回の学術大会の参加者は約3,000人で、まさに歴史に残る学術大会でした。そして、「対面形式」という壁を見事に破るひとつの大きな出来事となりました。



当研究センターのメンバーの発表タイトル

○ 大会長講演

「我々はどこから来たのか、どうあるべきなのか」センター長・教授 森岡 周

○ 教育講演

「歩行を実現する神経メカニズム」准教授 岡田 洋平

「高次脳機能を可能にする神経メカニズム」准教授 信迫 悟志

○ シンポジウム

ー筋シナジーと歩行

「脳卒中者の歩行障害と筋シナジー」 客員研究員 水田 直道

ー中枢性疼痛の脳内メカニズムとリハビリテーション

「脳卒中後疼痛の表現型における病態分析」 博士後期課程 井川 祐樹

「脳卒中後疼痛における臨床評価の最適化とリハビリテーションの検討」 准教授 大住 倫弘

ー 脳卒中患者の入院と生活期を繋ぐリアルワールドエビデンスの創出に向けて

「脳卒中患者の入院と生活期を繋ぐリアルワールドエビデンスの必要性」

客員研究員 石垣 智也

「データベース構築に必要なアウトカム評価の課題と展望」 博士後期課程 尾川 達也

ー パーキンソン病診療の近未来へのロードマップ

「パーキンソン病の理学療法の現状と今後の展望」 准教授 岡田 洋平

「パーキンソン病患者の **Unmet Rehabilitation Needs** に対する理学療法介入の現状と今後の展開」 博士後期課程 成田 雅

ー 身体性変容から生きにくさを探る

「”私が運動を制御している”と信じられることの意義とは？」 客員研究員 宮脇 裕

「無いはずの手に経験する痛みへ接近する」 准教授 大住 倫弘

ー 我々は何者か？「Neurological PT」とは

「従来の評価手法・データ分析プロセス再考による障害の特徴づけ」

博士後期課程 藤井慎太郎

○ 口述発表

「橋梗塞症例における発症初期から歩行自立までの立位姿勢制御の経過」

博士後期課程 赤口 諒

「脳卒中患者の不整地歩行の特徴」 博士後期課程 乾 康浩

「回復期脳卒中患者の実生活環境における歩行の冗長性の特徴」 客員研究員 西 祐樹

「脳卒中患者の歩行における筋シナジー併合の下降性神経メカニズム」

客員研究員 水田 直道

「脊髄小脳変性症における歩行不安定性の検証」 修士課程 奥田 悠太
「パーキンソン病患者の起居動作能力低下の関連要因の解明」 博士後期課程 成田 雅
「小脳への経頭蓋直流電気刺激が小脳性失調患者の歩行および姿勢動揺に与える影響：症例研究」 修士課程 佐藤 悠樹
「行為 - 結果規則性の知覚感度の発達変化」 准教授 信迫 悟志
「脳卒中症例の物体把持時の運動出力発揮・制御特性」 博士後期課程 赤口 諒
「回復期脳卒中患者における上肢活動量の時空間特性 —加速度計を用いた特徴分類—」
修士課程 南川 勇二

○ ポスター発表

「身体知覚異常と特異的に関連する痛みの性質分類および疼痛表現」 客員研究員 重藤 隼人
「視床病変5症例における中枢性脳卒中後疼痛の特徴の違い」 博士後期課程 井川 祐樹
「脳卒中後疼痛患者の痛みと温度感覚障害に対するサーマルグリル錯覚を用いた検証」
博士後期課程 松田 総一郎
「パーキンソン病症例における姿勢制御特性」 博士後期課程 藤井 慎太郎
「回復期脳卒中患者における立位制御能の経時的変化 : SDA 解析と周波数解析を用いた
単一症例研究」 修士課程 立石 貴樹
「静止立位と安定性限界の特徴からみた立位姿勢障害の評価」 修士課程 長尾 綾菜
「両眼性複視を呈した症例に対する眼球運動練習の亜急性期経過」 客員研究員 瀧上 健
「脳卒中患者の歩行自立度予後予測モデル(TWIST model) の外的妥当性の検証」
客員准教授 植田 耕造
「年齢別による能動・受動的注意機能の比較」 修士課程 緒方 練人
「歩行中の感覚運動不一致に関する研究」 客員研究員 林田 一輝
「脳卒中後肩痛の特性は痛み部位の広がりによって異なる」 博士後期課程 古賀 優之